

2025年度大学入学共通テスト出願者数速報値

2025年度大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の出願は10月7日が最終日であった。大学入試センターから発表された出願締切最終日17時現在の出願総数は484,568人となった。前年同時点と比較すると19,099人増加（前年同時比104%）した。

■ 現役生志願者数が増加、現役志願率は過去最高となる見込み

出願者の内訳をみると、高等学校等卒業見込者（現役生）は423,096人（前年同時比105%）と前年から19,378人増加した<図表>。来春の18歳人口はおよそ109万人で、今春から約2.7万人増加する（前年比103%）。最終日時点の共通テスト現役出願者の増加率はこれを上回っており、確定数も同様の傾向なら、現役志願率（共通テスト現役出願者数／高等学校等新規卒業者数）は前年の45.2%を上回り、過去最高となると予想する。

現役生志願者がこれほど増加した背景には、私立大の総合型・学校推薦型選抜で合格者に共通テストの受験を義務付ける大学があること、共通テスト導入後、一旦は利用が減っていた私立大専願者が共通テストの利用を検討しはじめたことにあるとみる。

■ 既卒生志願者数は前年並み、新課程移行の影響を感じさせず

高等学校卒業者等（既卒生等）の出願者は前年から279人減少の61,472人（前年同時比100%）だった。前年は18歳人口が前後5年で最少だったことから、今年の既卒生は減少してもおかしくない状況であったが、前年並みとなった。また、これまで新課程移行直前の入試では既卒生が大幅に減少する傾向にあったが、今回は当てはまらなかった。

要因は大きく2つ考えられる。1つめは今回の課程改訂の変化が限定的だった点である。共通テストに新教科「情報」が加わるほかは、実質的な変更は小さかったことから、浪人を忌避する雰囲気は広がらなかった。

2つめは近年進む大学入試の競争緩和が、受験生の志望校を妥協しない姿勢を後押ししていることである。少子化により、私立大では定員未充足の大学が6割近くにのぼること、難関大であっても国公私立を問わず数年前より合格しやすくなっていることなどから、たとえ浪人してでも志望を貫く受験生の割合は増えているとみる。

共通テストの確定志願者数は12月上旬に発表される予定である。出願最終日の消印のあるものまで受理されるため、例年、確定志願者数は最終日時点から2～4万人ほど増加する。河合塾では確定志願者数が出た段階で、さらなる分析をする予定だ。

<図表> 2025年度共通テストの出願状況（2024年10月7日17時時点）

		2025年度 （出願最終日 17時時点）①	2024年度 （出願最終日 17時時点）②	①－②	2024年度 （最終発表値）
出願総数		484,568人	465,469人	19,099人	491,914人
内 訳	高等学校等卒業見込者 （高等学校等経由出願）	423,096人	403,718人	19,378人	419,534人
	高等学校卒業者等 （個人直接出願）	61,472人	61,751人	-279人	72,380人

※大学入試センター発表資料より ※出願は受付最終日の消印のあるものまで受け付ける
※重複出願等の確認後、確定志願者数が発表される予定